



【学校教育目標】

時代の変化にしなやかに対応できる力と豊かな心を持ち、たくましく未来を開く生徒の育成

子供の言い訳を引き出す質問，引き出さない質問

これは知人から聞いた興味深い話です。A君，B君は共に，大学受験に向かって，勉強に取り組んでいる高校3年生です。模試の結果をもとに，先生が指導していると，二人の反応の違いに驚かされることがしばしばありました。

A君は，結果が思わしくないと，「今月は学校行事が忙しくて，勉強の方がなかなか・・・」と言い訳をします。「先生が『勉強しとけ』って言ったところが出なかったから悪かったんです。」と先生のせいにすることもあります。B君の方は，「今回は分からない単語が多くて，得点につながらなかったように思います。次は，単語力を強化しておこうと思います。」と自分なりに結果を分析し，次の対策を考えて答えます。

生徒のタイプは各々とは言え，「こうも反応が違うのはいったい何なのだろう？」と先生は不思議に思っていました。そしてついに，「こういうことなのか！」と思いが当たる場面に出会ったそうです。

★原因追及は言い訳を引き出す

それは，三者面談の席でのことでした。A君親子の場合，ことあるごとに，お母さんがA君に向かって，不満そうに質問するのです。

「どうして，夏休みにもっと頑張っておかなかったの？」

「どうして，そういう言い方をするの？」

「どうして，お母さんに相談しないの？」

そのたびに，A君は，「だって・・・」と言い訳をします。お母さんは，先生に対しても「先生，どうしてこの子はこんなにやる気がないのでしょうか？」と詰め寄るありさま。結局，あまり前向きな面談にはなりません。

お母さんは，純粹に，原因や理由を知りたくて，「どうして？」と問いただしていたのかもしれませんが，「万事あの調子で原因を追及されていたら，A君が言い訳をするようになってしまうのは仕方がないな。」と先生は思ったそうです。

★解決策を探る質問の効果

一方，B君親子の三者面談では，少し様子が違いました。B君のお母さんからは，こんな質問が，折々に先生やB君に投げかけられるのです。

「先生，数学が伸びてきたようですが，どんな方法で伸びたのでしょうか？それが分かると，他の科目ももっと伸びるように思うのですが。」

「B君，目標に近づくために，あと何をしたらいいと思う？」

「どうしたらもっと伸ばせるかな？」

「なるほど！このお母さんの質問の仕方が，いつもB君から，前向きな対策を引き出しているのか！」と先生は納得したそうです。

結果を踏まえて，次，もっとうまくやるためにはどうしたらいいのか，解決策を探るよう促す質問です。「日頃から，どんな問いかけをするのかが，子供の思考回路を作っていくんだなあ」と改めて思いましたよ。」と先生は話してくださいました。

★「どうして？」から「どうすれば？」へ

同じような話は，ある児童館でも聞いたことがあります。例えば，子供たちがふざ

け合っているうちに、花瓶が倒れて割れてしまったという場面で、「誰が壊したの？」
「どうして壊れたの？」と言われ慣れている子供は、「自分がやったんじゃない！」
と必死に自己弁護をします。「〇〇ちゃんが押したから。」と人のせいにしようとしま
す。

ところが、日頃から、「何が起きたの？」「どうすればいいのかな？」というコミュ
ニケーションを取ってもらっている子供は、そんなときも、決して動揺せず、「危な
いから、まず片付けよう！」と淡々と次の行動を起こすというのです。

「どうしてこんなことをしたの？ダメでしょ！」と言えば、責められないように言
い訳を考える子供になってしまいます。

「こういうときはどうすればいいと思う？」と問い続ければ、建設的に解決策を考え
られる子供になります。どちらが「生きる力」を持った大人へと育つでしょうか。「ど
うして？」を「どうすれば？」に変えることから意識してみたいものです。



人間はとても弱い生き物なので、何かうまくいかないことがあると、人のせいにし
たり、環境のせいにしたりするものです。物事が全て自分の思いどおりになることな
んてあり得ません。だから時には、うまくいかないことを人のせいにしてしまいたくなるこ
ともあるでしょう。また、本当にそういうことがあったのかも知れませんが、そういう思い
にさせられたということもあるかも知れません。

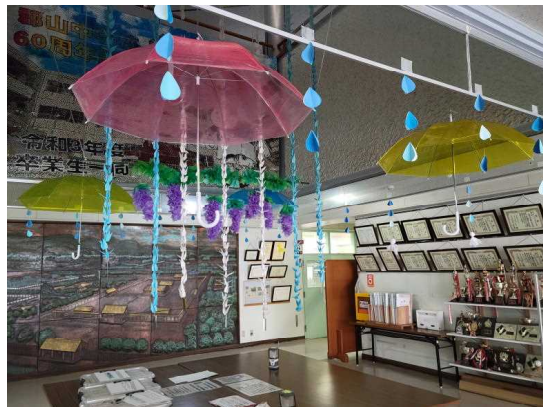
人のせいにすると、そのときは何となく気が楽になるものです。しかし、そのときは少
し気が楽になったとしても、本質的な解決にはなりません。なぜなら、解決を他者にゆだ
ねているからです。人生は自分のものなのに、他者によって大きく左右される。つまり、
自分の人生を他者にコントロールされてしまうことになってしまふのです。自分の人生を
作り上げていくのは自分にしかできないことです。世の中にはいろんな性格の人がいたり
、いろんな価値観を持っている人がいたりするのに、そういう人たちに自分の人生をコン
トロールさせていったら、環境に縛られ(振り回され)、主体的に生きていくことなんて
不可能になってしまいます。だから、そうならないためにも、まず「自分を見つめ直す」こ
とをお勧めしたいと思います。見つめ直すことによって、自分なりの改善策を考え、それ
を実行に移していく。これこそ、「主体的に生きる」「自分の人生を自分でコントロールす
る」ことにつながっていくのではないのでしょうか。

50歳を過ぎてもなお現役として活躍しているサッカー界のレジェンド三浦知良(キン
グガズ)選手は、その著書の中で次のようなことを書いています。

「学ばないものは人のせいにする。学びつつあるものは自分のせいにする。学ぶとい
うことを知っている者は誰のせいにもしない。僕は学び続ける人間でいたい。」

多くの人からリスペクトされている三浦知良選手のかっこよさは、このようなものの考
え方にあるのかも知れません。

郡中生よ、かっこいい生き方で、更に自分を高めていこう！



左：
8組ファーム
ラディッシュの
種植え

右：
職員室前吹き抜
けの様子(梅雨
バージョン)